

2025 年度

ちゃいれっく初石保育園 子ども主体の園庭改造をめざして①

初石園にある園庭は、昨年度までは子どもたちが走り回れるように、固定の遊具は砂場だけで、あとは使いたいのを(滑り台やシーソー、三輪車やキックボード、台や板など)担任に出してもらって、子どもたちは遊んでいました。

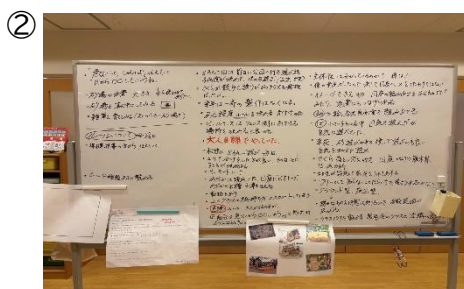
しかし 昨年度より「子ども主体の保育」についての研修に職員と参加し話し合いを持つ中で、今の園庭の遊び方は「子ども主体の保育」としてどうなのかと疑問が生まれました。

大きい子クラスが園庭で走り回ったり、三輪車に乗っているときは、小さいクラスは「危ないから」という理由で園庭に出られなかったり、先に小さいクラスが園庭にいたら大きいクラスが園庭に出るのを遠慮したりという状況がありました。安全に過ごすためには仕方ないと思ってきましたが、「園庭は園に通う子どもたちの共有の場であるから、子どもたちみんなが等しく使えるようにしたい。異年齢児が共有の場で遊ぶというのは保育園でしかできないことだと思うので、0 歳児から 5 歳児クラスまで一緒に遊べる園庭に改造したい」と園長から職員に提案しました。

「今のままでいい」という意見もありましたが、話し合いや意見交換を行い、少しずつですが改造計画が進みました。もともと園に砂場はあったのですが、子どもが 4 人入るだけでいっぱいになる小さなものでした。砂遊びや泥遊びをたくさんさせたいと思い、まずそれを大きくしてみようという話になりました。



① 当初の園庭: 固定遊具は小さな砂場のみでした。



② 「いつもこどもたちを真ん中に」の考えのもと、職員との話し合い。意見がたくさん出ました。



③ 周りにリレーやかけっこスペースをとるため、園庭の真ん中に砂場を配置しました。



④ 今までの砂場はゴムチップの園庭で草花が育たないため、雑草を育て、遊びに使うと花壇にしました。



⑤ 大きくなった園庭で 子どもたちは裸足でどろんこ遊びをしたり、いろんなクラスが一緒になって遊べるようになりました。大きい子の遊びを小さい子がまねたり、学ぶ機会が増えています。

2025 年度

ちゃいれっく初石保育園 子ども主体の園庭改造をめざして②

砂場は設置を終えましたが、園のもう一つの課題として、砂場の道具やおままごとの道具があちこちに点在して、それに子どもが躓く様子がみられました。もちろん、遊びは時間を経過するうちに変化していくため、片付けをしないまま次の遊びに移ることはよくあります。ただ、みんなで道具を使うなかで、「**みんなが楽しく過ごせるためのルールはあった方がいいのでは？**」という意見が職員から起こりました。

「何気なくコーナーにしておいたらそこで遊びが始まり、その遊びが好きな子が集まることで遊びが広がっていくのでは？」ということ話を話したところ、職員から「タイルの部分を活用できれば園庭を広く使えるのではないかな？」という意見が出ました。タイルの部分は滑りやすいため子どもたちもあまり遊びませんでしたが「**人工芝を敷いたら遊ぶスペースが広がるのでは？**」という話になり、早速人工芝を敷いてみました。

当初は子どもたちは靴を脱いで入るとは考えていないようでしたが、気持ち良かったのか大きい子どもたちが次第に裸足で遊びだしました。0歳児クラスの子どもたちもハイハイをするなど、子どもたちがゆったり遊べるスペースが出来上がりました。



乗り物で入ったり、走って飛び込まないように、人工芝とゴムチップの園庭の間にプランターを置きました。